

大阪 あちこち

●聖徳太子ゆかりの太子町

太子町は、町名に由来する聖徳太子と深いつながりがある町です。そこで今回は、聖徳太子が生前、最期の地として選び、自らつくったとされる墓を今なお守護し見守る叡福寺とその界隈をご紹介します。

□叡福寺

わが国初の女帝、推古天皇が聖徳太子の墓を守るために創建したといわれ、その後、織田信長による兵火で焼失、江戸時代に再建されて現在の姿となりました。境内には、国の重要文化財である聖霊殿しょうりょうでんや多宝塔たほうとうなどの建造物をはじめ、聖徳太子ゆかりの貴重な仏教美術を収める宝蔵もあります。



□聖徳太子御廟

叡福寺の一番奥、小さな森の中程に聖徳太子のお墓があります。直径50mほどの円墳で、内部には横穴式石室があり、母の穴穂部間人あなほべのはしひと、妃の膳郎女かむわでのいらつめがともに葬られており、三骨一廟と呼ばれ、長きにわたり信仰を集めています。



□太子・和みの広場

叡福寺の東側に位置するふれあいと交流の広場です。野外ステージを備え、聖徳太子絵伝のレリーフや石棺などの遺跡ゾーンでは、歴史を身近に親しんでいただけます。毎月第3日曜には、まちの活性化を目指した住民有志の手づくりによる「たいし聖徳市」という青空市が開催され、特産品の販売などが好評です。

□景観計画の策定

叡福寺の周辺は、歴史の重みを感じさせるまちなみが続いており、町のランドマークでもある二上山と一体的な景観を形成しています。そして、漆くい白壁家屋が軒を連ね、敷地内に施された植栽の緑と調和のとれた眺望が今もなお残っています。そのため、町の総合計画においてもまちの「顔」にふさわしく、人が集い、にぎわいのある空間と位置づけ、周辺地区の整備に取り組んでいくこととしています。

現在、景観法に基づき、景観計画を策定し、とくに叡福寺周辺地区を景観計画区域と定め、地元住民による「叡福寺周辺まちづくり協議会」との協働のもと、歴史的景観や周辺のまちなみ景観、そして、府道美原太子線の再整備による安全な歩行空間とが一体となった景観形成のまちづくりの取り組みが進んでいます。



▼お問い合わせ先▼

太子町総務部政策室

TEL 0721-98-5531

FAX 0721-98-4514

E-mail seisaku@town.osaka-taishi.lg.jp